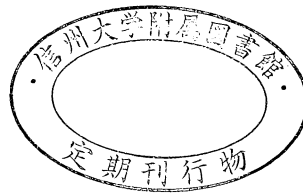


長野県松本市

OKADANISHIURA

岡田西裏遺跡Ⅷ

—緊急発掘調査報告書—



2006.3

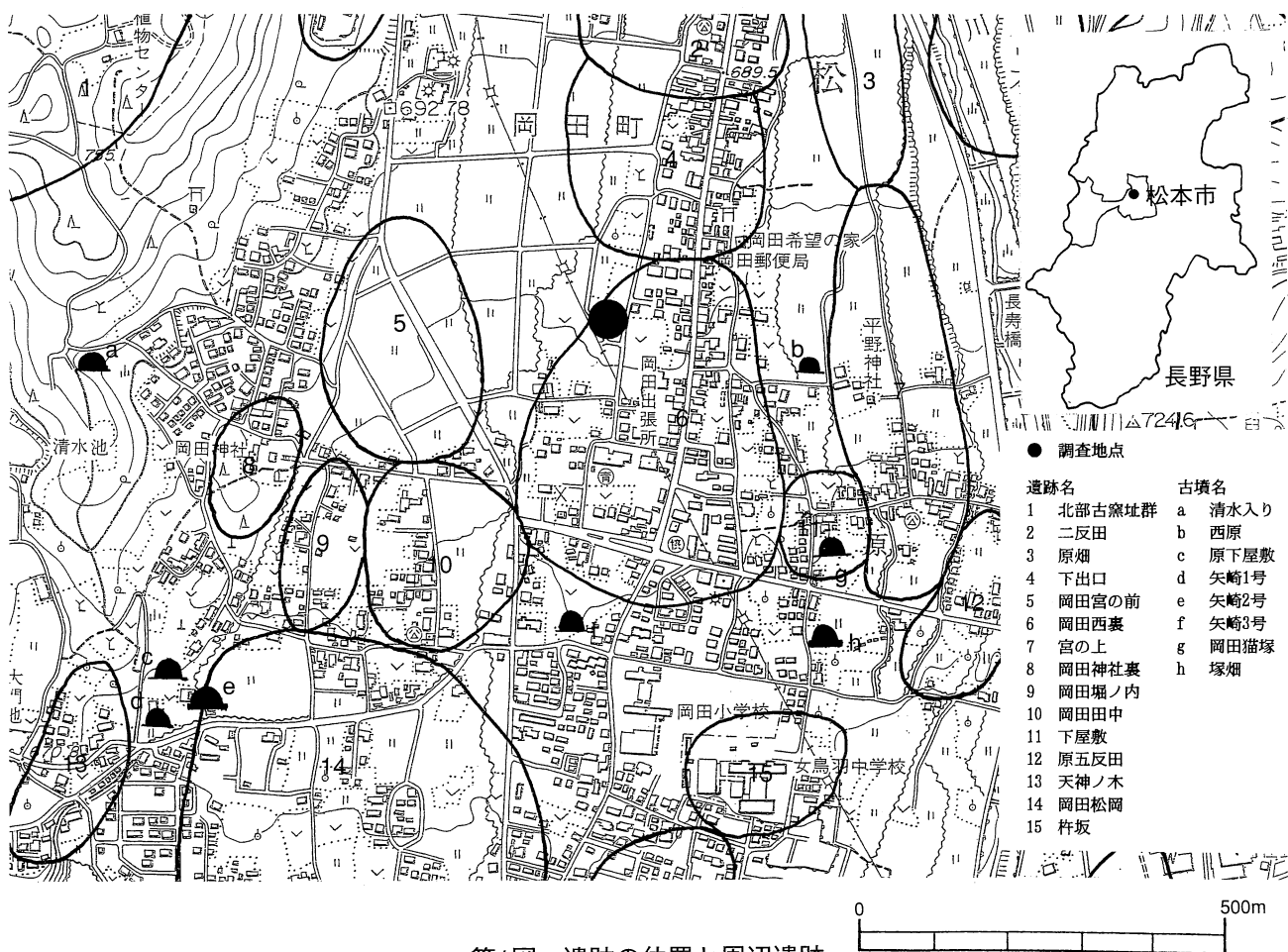
松本市教育委員会

例言

- 1 本書は、長野県松本市大字岡田町523-1 他において、平成17年4月4日から平成17年4月28日の間行われた岡田西裏遺跡（おかだにしうら-いせき）第Ⅷ次調査の報告書である。
- 2 本調査は、宅地造成に先立ち、株式会社パナホーム長野中央と松本市が発掘調査委託契約を締結し、それに基づいて松本市教育委員会が行った緊急発掘調査である。
- 3 本書の執筆はⅠ：事務局、Ⅱ-1：森義直、Ⅲ-1・2：岡崎武祥、その他を三村竜一が行った。
- 4 本書作製にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄：百瀬二三子	鉄器実測・トレース：洞沢文江 八板千佳
遺物保存処理・復元：中澤温子	版組：竹平悦子 村山牧枝 八板千佳
遺構図整理：村山牧枝	写真撮影(遺構)：岡崎武祥 三村竜一
土器実測・トレース：白鳥文彦 竹平悦子 八板千佳	(遺物)：宮嶋洋一
石器・石製品実測・トレース：望月映	表作成：岡崎武祥
- 5 石器・石製品の材質鑑定については森義直氏にお願いした。
- 6 本書の中で使用した遺構名の略称は次のとおりである。

第1号住居址→1住	第1号竪穴状遺構→1竪	第1号溝址→1溝	第1号土坑→1土
-----------	-------------	----------	----------
- 7 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL0263-86-4710 FAX0263-86-9189）に収蔵されている。



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡

I 調査の経緯

1 調査に至る経緯

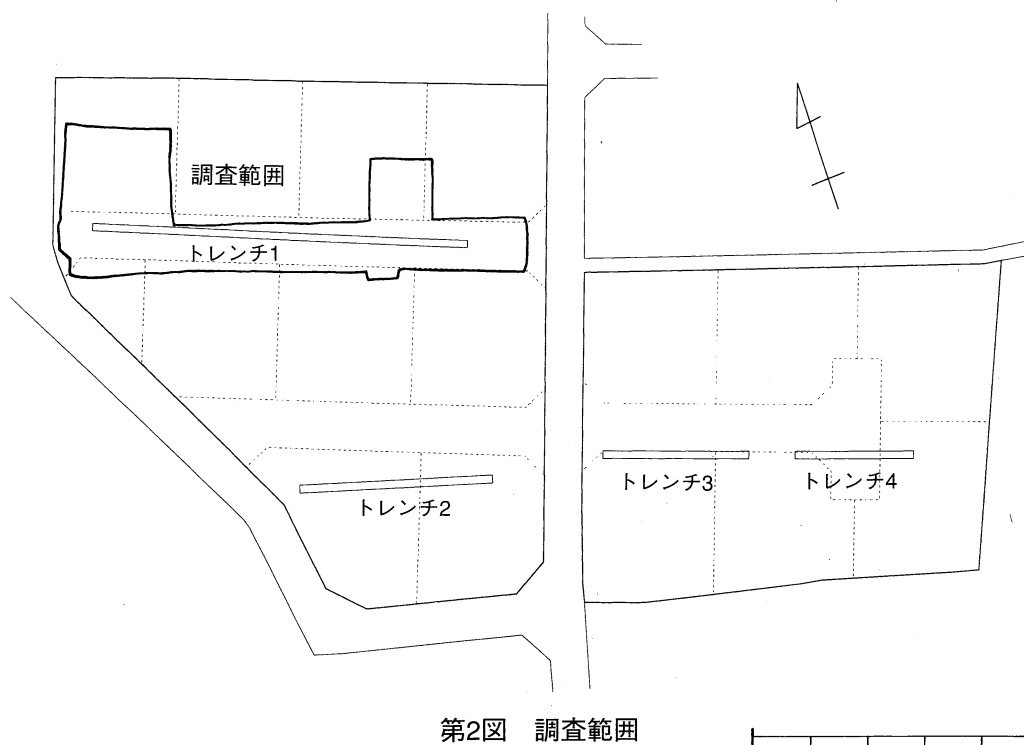
岡田西裏遺跡は松本市街地の北、岡田地区に位置する遺跡である。昭和54年に第1次発掘調査が行われてから7次にわたって発掘調査が実施されており、縄紋時代前期から平安時代後半までの住居址と奈良時代末～平安時代前期にかけての土師器製作集団の営んだ集落址が確認されている。

こうした中、平成17年、株式会社パナホーム長野中央による宅地造成が計画され、造成地が周知の遺跡である岡田西裏遺跡内にあたるため、埋蔵文化財が破壊される可能性が生じた。よって試掘確認調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認することになった。試掘確認調査は平成17年1月13～14日、重機によって申請地内に4本のトレンチを設定して行った。その結果、15～40cm掘り下げたところで土器片が多数出土し、住居址・土坑が検出された。このため、事業者と埋蔵文化財の保護について協議を行い、宅地造成事業に先立ち、遺跡の破壊が避けられない西区画の開発道路予定地を中心に発掘調査を実施して記録保存を図るものとした。

平成17年4月1日付で事業主である株式会社パナホーム長野中央と松本市が委託契約を締結し、松本市教育委員会が発掘調査を行った。同教育委員会では次節のような発掘調査団を組織して同年4月4日から4月28日まで現地における調査を実施し、調査終了後は室内における整理作業及び本報告書の作成を行って、平成17年度、本報告書を刊行するに至った。

2 調査に至る経緯

調査団長	竹淵公章(松本市教育長)
調査担当者	三村竜一(文化財課主任)、岡崎武祥(同嘱託)
調査員	今村克、三村肇、森義直
協力者	井口方宏、入山正男、折井完次、久保田登子、黒木奈津美、澤柳博、中村恵子、中山自子、布野行雄、布野和嘉夫、古屋美江、宮澤文雄、宮田勝年、宮田美智子
事務局	松本市教育委員会文化財課 宮島吉秀(課長)、熊谷康治(課長補佐)、直井雅尚(主査)、櫻井了(主事)、渡邊陽子(嘱託)、花村かほり(同)

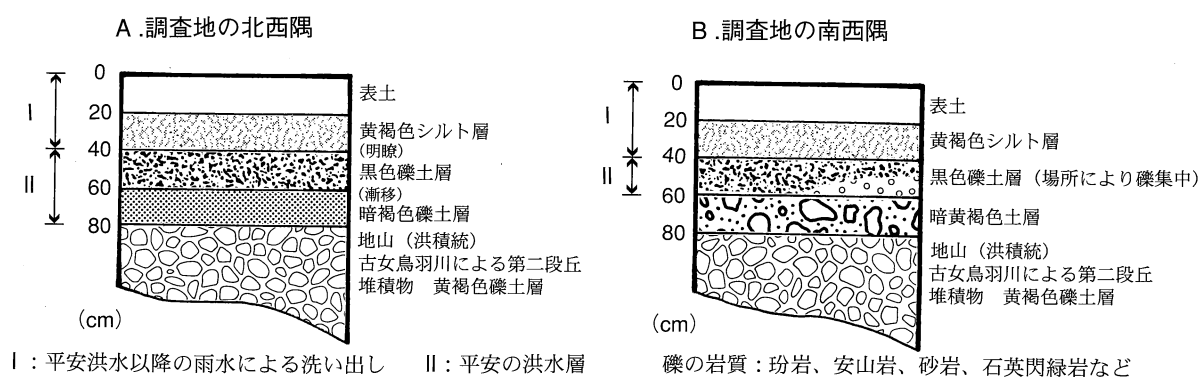


II 遺跡の環境

1 地形・地質

調査地点の立地 本岡田西裏遺跡は、南流する女鳥羽川により形成された南に広がる扇状地の西端近くにある。この扇状地には古女鳥羽川が形成した三段の段丘面があり、その第二段丘面を旧女鳥羽川により再侵食されて生じた凹地の東側に位置し、流路であった頃の左岸の氾濫原であり、標高は680m前後である。西側は城山へ続く低い傾動山地であり、東側は扇央（岡田町）を越して現在の女鳥羽川とその氾濫原になっている。

発掘地点の地形・地質 今回の発掘地点は、岡田町西側の第二段丘面（洪積世）を再侵食した旧女鳥羽川（縄紋？～平安中期）に関係する遺跡群のうちでは最も下流（南）に位置している。ここは侵食された幅広い凹地の左岸であり、旧流路に沿って南に傾斜すると共に当時の氾濫原を兼ねた川岸として、西側にも少し傾斜しているため、遺跡全体としては南南西に緩く傾斜している。この地形と傾斜角が遺構の遺存状態と深く関わっており、縄紋～平安の遺構が殆ど同じ土層面から検出されている。この現象は一言で言えば、流入する土砂の量と流出し去る土砂の量がいつも同じであったために起きた特異な場所とすることができる。この旧女鳥羽川も平安中期～後期に起きた大洪水により、土砂を堆積させながら一気に東へ移動し、そのまま現在に至っている。このときの大洪水の爪跡を残しているのが、岡田西裏遺跡Ⅱで報告してある旧女鳥羽川左岸の残骸である。本調査地点にも遺構の上に平安の篩別けの悪い洪水性の礫土層が載り、更にその上には雨水や小流によって洗い出され、流されてきたシルト質の土層が40cm程堆積し現在に至った。



第3図 調査地土層概念図

2 歴史的環境

松本市岡田地区周辺には、多数の遺跡が分布している。ここでは本遺跡で実施された7次にわたる調査成果と本報告に関わる近隣する縄紋時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺跡について簡単に触れてみたい。（図1参照）

縄紋時代 前期に本遺跡のほか11下屋敷が知られる。中期に本遺跡（住居址7）、11下屋敷、14岡田松岡、15杵坂があり、晩期では3原畑がある。**古墳時代** 前期に本遺跡（住居址3）の他に2二反田、11下屋敷がある。中期は14岡田松岡で土器が相当出土している。岡田町周辺では、前期の住居址の発掘調査例が増えつつある。また中期の集落は南2 km程にある大村古屋敷で17軒見つかっており、当期の拠点集落はこの周辺に存在した可能性がある。古墳の分布は、女鳥羽川両岸に点在する一群と城山丘陵に続く北縁の丘陵地帯の一群に分かれる。**奈良・平安時代** 本遺跡で住居址67のほか工房と考えられる住居址の周囲に土器焼成坑が約60基見つけた。他には2二反田、3原畑、4下出口、5岡田宮の前、7宮の上、8岡田神社裏、9岡田堀ノ内、10岡田田中、11下屋敷、12原五反田、13天神ノ木、14岡田松岡、15杵坂、1北部古窯址群がある。近年多くの発掘調査により、多くの成果が得られていて、5岡田宮の前では、超大型の住居址、庇を有する大規模な掘立柱建物址が確認され、須恵器生産を司る中枢的な集落と捉えられている。

Ⅲ 調査結果

1 調査の概要

本遺跡では、これまでに昭和54年～平成14年にかけて7次にわたる調査が実施され、今回は第8次調査となる。今回の調査地は、遺跡範囲の北西端にあたる。建設用重機を用いて耕作土と遺物包含層（にぶい黄褐色土・黒色土）を除去し、地表面下約20～60cmを遺構検出面とした。調査面積は426m²を測る。遺構は住居址6軒（縄紋2、古墳2、平安1、不明1）、竪穴状遺構1基（平安）、柱列1基（平安）、土坑79基（縄紋～平安）、ピット153基（縄紋～平安）、溝1基（時代不明）を検出し、縄紋～平安時代の遺物を得た。

2 遺構

(1) 竪穴住居址（第5・6図、第1表）

① 縄紋時代

第1号住居址（第5図）第3号住居址（以下○住と略す）を切る。検出当初は切り合いを見落とし1軒の住居址としていた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面は軟弱だが平坦。炉は地床炉。ピットは12基あるが主柱穴は不明。3住のものが含まれる可能性がある。時期は遺物から、前期末～中期初頭と推定される。

第3号住居址（第5図）壁は斜めに立ち上がる。床面は比較的軟弱だが平坦で、北側半は地山の明黄褐色土に含まれる礫が露出する。炉は未検出。ピットは5基ある。遺物は少ないが、中期初頭と推定される。

② 古墳時代

第2号住居址（第5図）4住を切る。調査区西部の端に検出。本址西端部は調査区外に続きプランが確認できず、調査区際に別遺構が重複している可能性もある。壁はほぼ垂直に立ち上がる。床面北西部は礫層中に掘り込まれ、礫が露出していた。炉は未検出。ピットは17基ある。床面東側のP10には壺（第7図11）が埋設される。遺物は多く、覆土下層～床面上に一括資料を得た。本址の時期は中期と考えられる。

第6号住居址（第6図）壁際の床面約1mの範囲では、厚さ5cm程の炭化材が放射状に検出された。壁はやや傾きを持つ。床面は堅固。礫層中に床面を設ける東側では、明黄褐色の粘質土で礫を覆う。炉は未検出。ピットは10基あるが主柱穴は不明。P1からは多量の土器片が出土した。遺物は多く、一括土器、砥石が壁際の床面に置かれた状態で出土している。本址の時期は、遺物からみて、中期と考えられる。

③ 平安時代

第5号住居址（第5図）北側のみ検出。北壁はほぼ垂直に立ち上がり、西壁・東壁ではやや傾きを持つ。北壁西側に煙道が突出する石芯粘土袖カマドを検出。床面は一旦にぶい褐色土まで掘り込み、粘質の明黄褐色土を貼り付け堅固。遺物はカマド周囲から多く出土し、本址の時期は7期（文献1）と考えられる。

④ その他

第4号住居址（第5図）古墳時代の2住に切られて検出した。出土遺物が少なく、時期は推定できない。

(2) 竪穴状遺構（第6図、第2表）

第1号竪穴状遺構は、6住を切る。南壁際の一部を調査。遺物は少ないが、時期は6～7期と考えられる。

(3) 柱列（第6図、第4表）

調査区南東端部に一列に並ぶ穴を確認、第1号柱列とした。南側に続く可能性もある。数は16基。柱痕はなく、直径は30～80、深さ10～50cmと大小様々。一部は二段底。時期は遺物から6～7期と推定される。

(4) 土坑・ピット（第6図、第3表）

土坑、ピット共に調査区全域に分布しているが、特に1・3住周辺部に集中して検出された。遺物が出土するものは少なく、時期は不明なものが多い。

(5) 溝 調査区中央やや西に検出したが、未掘。谷状地形と思われる。

3 遺物

今回の調査で出土した遺物は、土器・陶磁器、石器・石製品、鉄器がある。

(1) 土器・陶磁器 (第7・8図、第5・6表)

今回の調査では縄紋時代、古墳時代、平安時代の土器が出土している。竪穴住居址から出土したものが多し。尚、器種・器形・年代観は、古墳時代を文献2、平安時代を文献1に従った。

① 縄紋土器 5点を図示した。前期末～中期初頭の破片で、31・32は前期諸磯C式、33～35は中期初頭五領ヶ台併行である。31～34は1住の出土で、3住と重複関係にあることから、混入品を含む可能性がある。

② 古墳時代の土器 ほとんどが2住と6住からの出土であるが、土坑・ピット・検出面等からも少量出土している。このうち24点を図示できた。すべてが土師器で、器種は杯・高杯・壺・甕・小形甕がある。出土数は甕類、壺類が多いが、図化できたものは、高杯、杯が多い。杯は6点あり、内訳は口縁短部が陵をもって屈曲する杯Aが3点(4・5・12)、そのまま納まる杯Bが3点(1～3)ある。高杯は9点あり、杯部分類では杯部Aは4点(6・15～17)、杯部C(13)が1点ある。脚部分類は、脚部A2点(7・13)、脚部B3点(14・18・28)がある。13のみ全形を知り得るが、杯部C・脚部Aの組み合わせになる。器面の調整は、脚部内面を除きミガキが施され、縦方向が最も多く、次いで横方向、斜め方向もある。壺は二重口縁形態の壺B2点(10・11)が図化できた。全形を捉えた11は最大径が胴部中位にあり、底部は平底である。口縁部は、頸部から外反した後、陵を作って、さらに外反する。調整は、口縁部で内外面横方向のミガキ、胴部は外面縦、内面横方向のミガキがされる。甕は2点(8・23)を図化した。このうち全形を捉えたものは、23のみである。口縁部は短く外反し、頸部は「く」の字形、胴部は卵形を呈し、最大径は胴部中位にある。頸部と胴部、胴部下半部に粘土接合痕が残る。器面調整は、胴部で内外面工具ナデがされ、内面の胴部上位には指ナデ、頸部～口縁部は横ナデがされる。底部はケズリ後ナデがされた不完全な丸底である。8は口縁部～胴部上位の破片で、口縁～頸部ヨコナデ、胴部は工具によるナデがされる。小形甕は5点(9・19～22)図示できた。甕を相似形に小さくした小形甕A(9)と杯Aを深くしたような形態の小形甕B(19・20・22)がある。このうち全形を捉えたものは22のみで、胴部下側に穿孔が認められる。調整は頸部～口縁部はヨコナデ、胴部外面にはハケ状工具ナデがされる。20は外面に赤彩が施される。

③ 平安時代の土器 ほとんどが5住と1竪からの出土であるが、1柱列や土坑等からも出土している。このうち6点を図示した。5点が土師器、1点(27)のみ須恵器で、短頸壺の破片である。黒色土器が3点あり、杯A(25)、椀(26)が各1点、24は杯Aもしくは椀であろう。30は甕B、29は小型甕Dである。時期は資料数が少なく判然としないが、7期を中心として、6期～8期のものが多い。

(2) 石器・石製品 (第8・9図、第7表)

① 縄紋時代の石器 定形的な石器は、石鏃4点、スクレーパー8点、打製石斧4点、磨石1点が出土し、一覧表で概要を提示した。ほかにも使用痕のある剥片・剥片・破片があり、合計1,117gを量る。

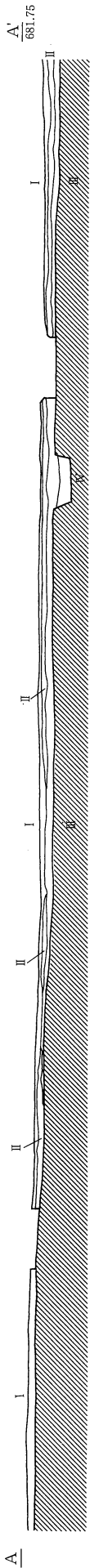
② 古墳時代の石器・石製品 定形的な石器・石製品は、中期の住居址から砥石3点、管玉1点が出土している。合計で、3,088gを量る。6住出土の砥石2点(19・20)は、壁際の床面に接した状態で見つかった。

(3) 鉄器 (第9図)

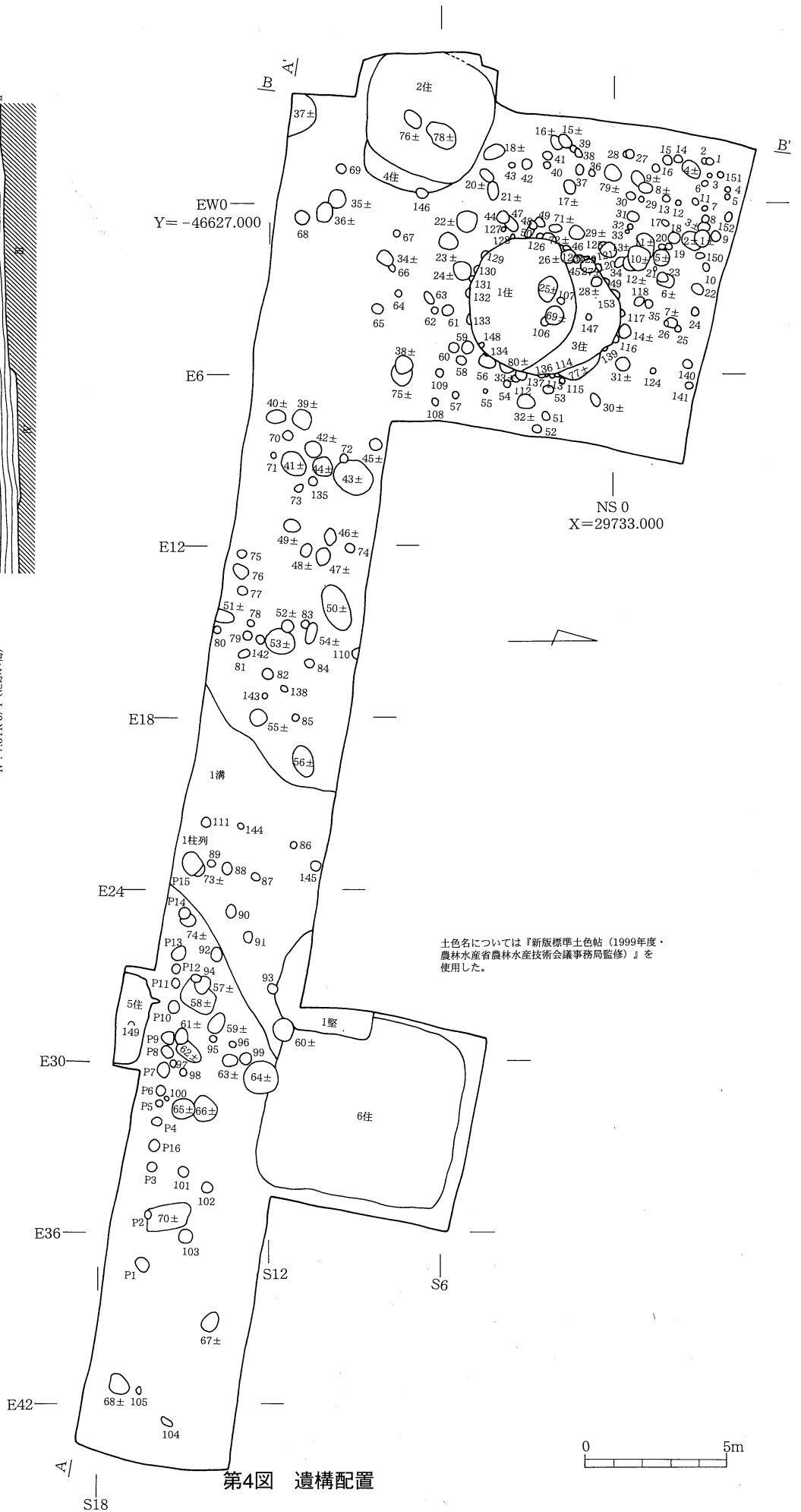
古墳時代の2住から、器種不明の軸部破片1点が出土している。

文献1 長野県教育委員会 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4-松本市内その1-総論編』 1990

文献2 松本市教育委員会 『松本市山影遺跡』 1993



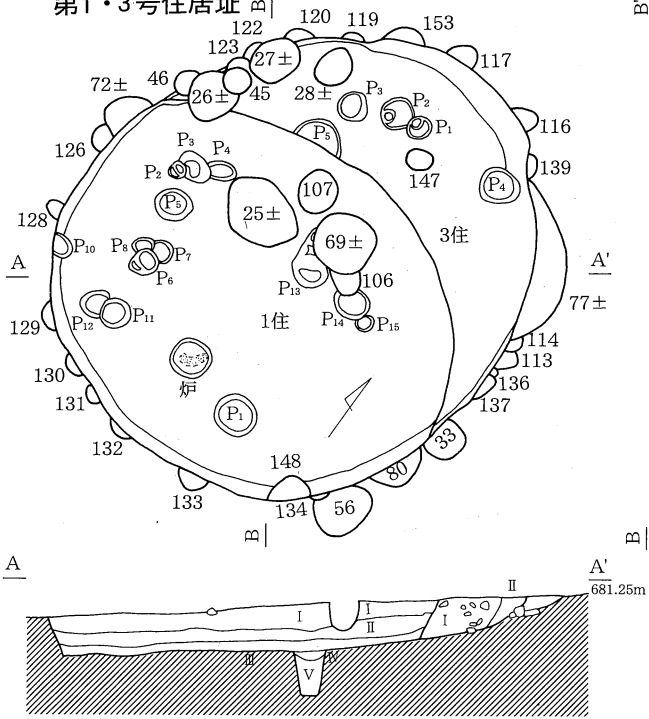
- I : 耕作土
- II : 10YR 5/4 (こげい黄褐色)
- III : 10YR 2/1 (黒)
- IV : 7.5YR 5/4 (こげい黒)



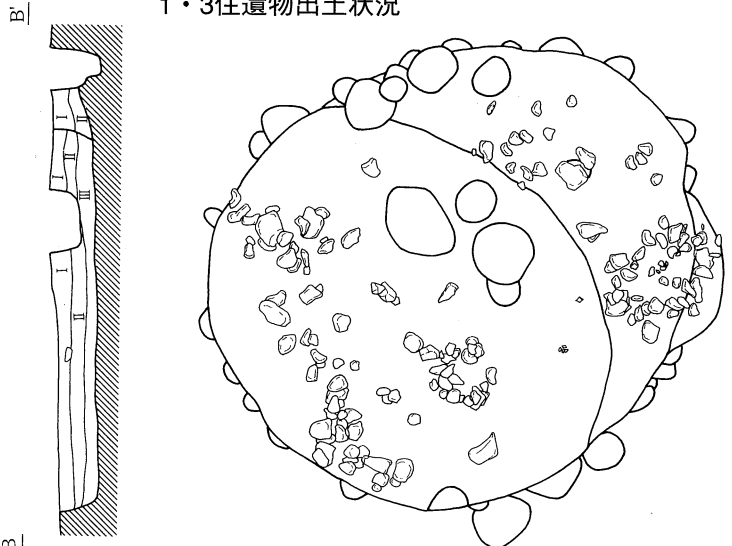
土色名については『新版標準土色帖(1999年度・農林水産省農林水産技術会議事務局監修)』を使用した。

第4図 遺構配置

第1・3号住居址

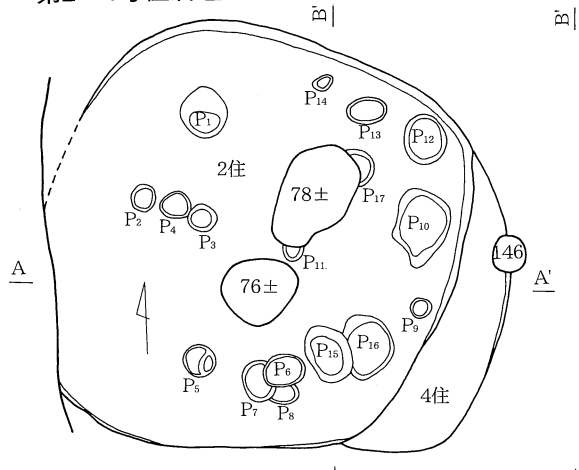


1・3住遺物出土状況

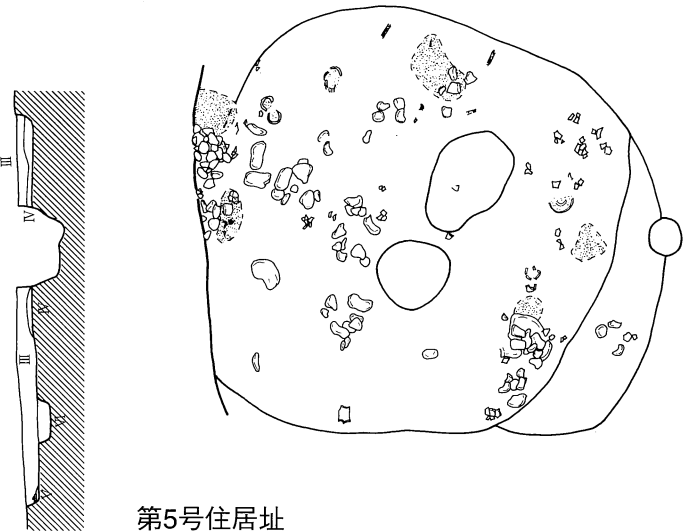


- 1住
 I : 10YR 4/2 (砂粒混入) (灰褐)
 II : 10YR 3/3 (砂粒混入) (暗褐)
 III : 10YR 3/4 (砂粒混入) (暗褐)
 IV : 7.5YR 4/2 (灰褐)
 V : 7.5YR 3/3 (暗褐)
 77±
 10YR 5/6 (砂粒混入) (黄褐)
- 3住
 I : 10YR 4/2 (砂粒混入)
 II : 10YR 3/4 (砂粒混入) (暗褐)

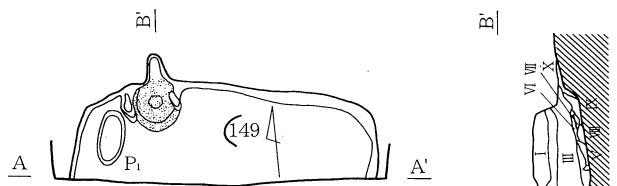
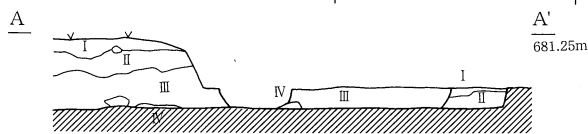
第2・4号住居址



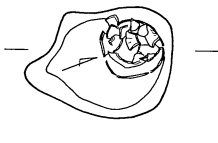
2・4住遺物出土状況



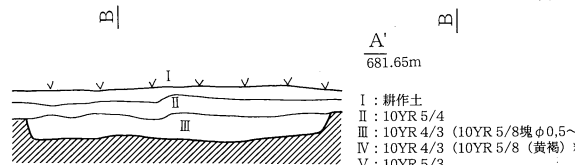
第5号住居址



P10



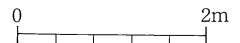
- 2住
 I : 耕作土
 II : 10YR 5/4
 III : 10YR 2/1 (焼土粒・炭化物粒少量混入) (黒)
 IV : 10YR 3/3 (暗褐)・10YR 5/6 混合
 V : 10YR 5/2~10YR 4/2 (灰黄褐)
 VI : 10YR 4/1 (褐灰)
- 4住
 I : 10YR 2/1 (焼土粒・炭化物粒少量混入)
 II : 10YR 5/2~10YR 4/2
- 2住P10
 I : 10YR 3/2 (黒褐)
 II : 10YR 5/3 (にぶい黄褐)
 III : 10YR 4/1 (焼土粒微量混入)
 IV : 10YR 5/2
 V : 10YR 4/2・5YR 4/6 (赤褐) 混合
 VI : 10YR 3/2 (炭化物粒・焼土粒少量混入)
 VII : 10YR 4/3 (にぶい赤褐)
 VIII : 10YR 3/2
 IX : 10YR 5/2



5住遺物出土状況



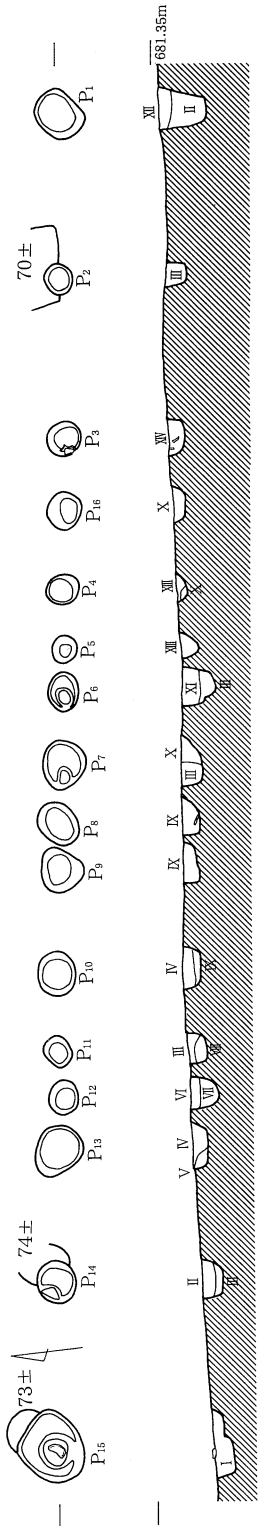
- I : 耕作土
 II : 10YR 5/4
 III : 10YR 4/3 (10YR 5/8塊φ0.5~1cm混入)
 IV : 10YR 4/3 (10YR 5/8 (黄褐) 粒混入)
 V : 10YR 5/3
 VI : 10YR 6/8 (明黄褐)
 VII : 10YR 5/3 (10YR 5/8粒多量混入)
 VIII : 10YR 5/3 (10YR 5/8粒多量・焼土塊混入)
 IX : 10YR 5/8 (焼土粒多量混入)
 X : 10YR 5/3 (焼土粒多量混入)



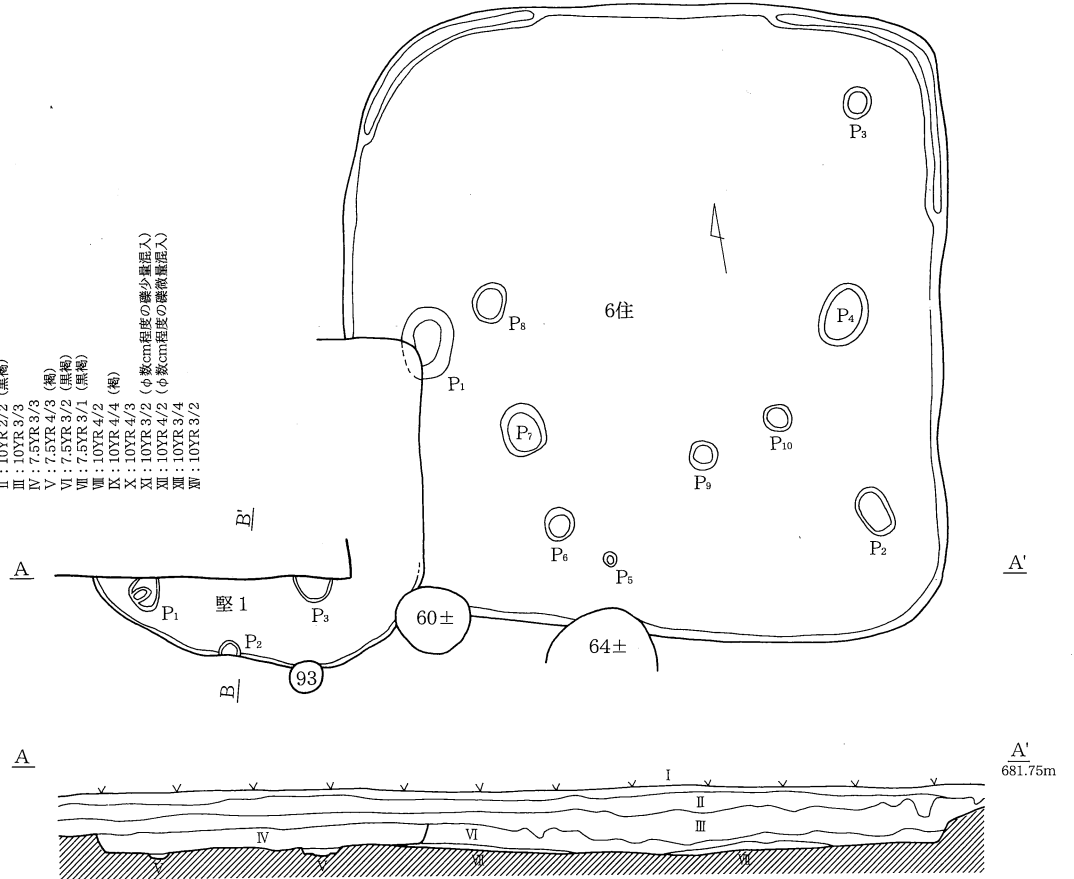
第5図 検出遺構(1)

第6号住居址・第1号竪穴状遺構

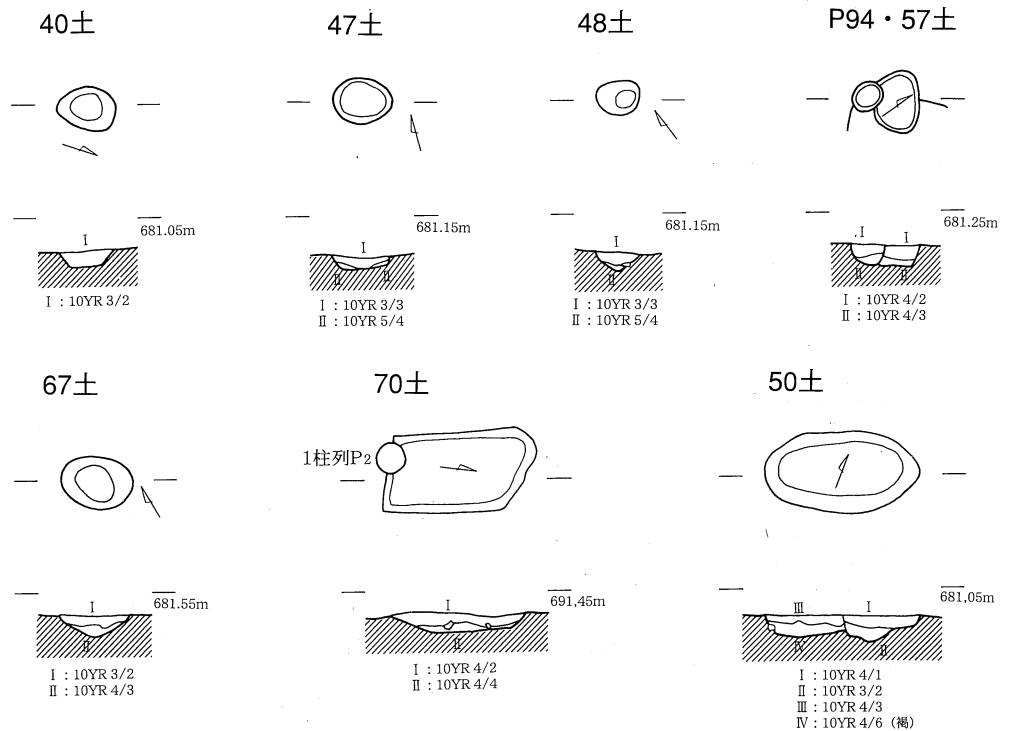
第1号柱列



- I : 10YR 2/3 (少数cm程度の礫多量混入) (黒褐)
- II : 10YR 2/2 (黒褐)
- III : 7.5YR 3/3
- IV : 7.5YR 3/3
- V : 7.5YR 4/3 (褐)
- VI : 7.5YR 3/2 (粗褐)
- VII : 7.5YR 3/1 (黒褐)
- VIII : 7.5YR 4/2 (褐)
- IX : 10YR 3/3
- X : 10YR 4/3
- XI : 10YR 3/2 (少数cm程度の礫少量混入)
- XII : 10YR 4/2 (少数cm程度の礫少量混入)
- 加 : 10YR 3/4
- 加 : 10YR 3/2

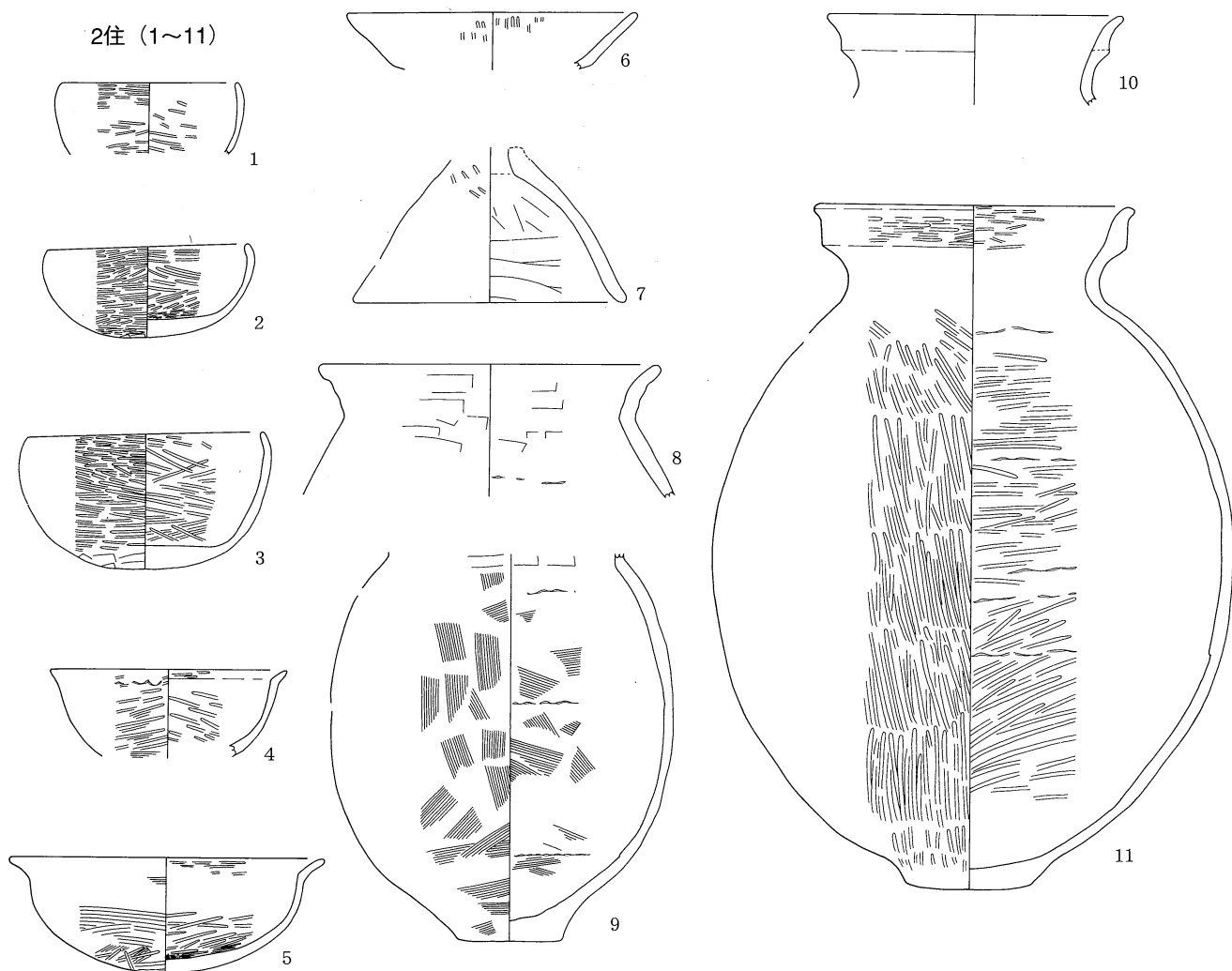


- I : 耕作土
- II : 10YR 5/4
- III : 10YR 2/1
- IV : 10YR 4/2
- V : 10YR 4/4 (褐)
- VI : 10YR 3/3
- VII : 10YR 4.5/6 (褐)

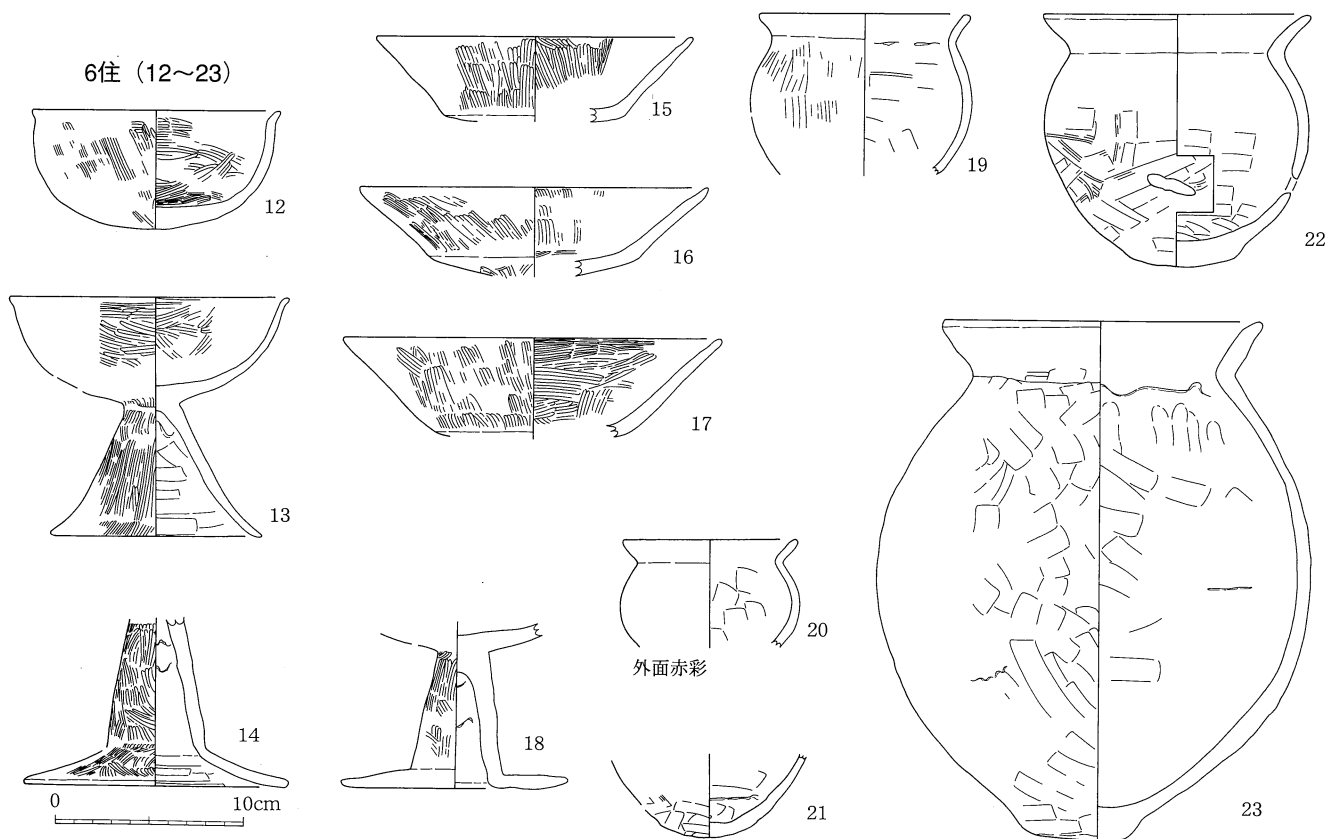


第6図 検出遺構(2)

2住 (1~11)

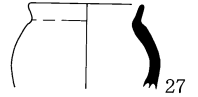
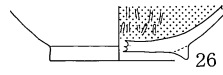
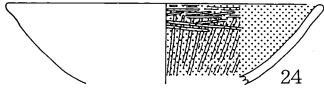


6住 (12~23)

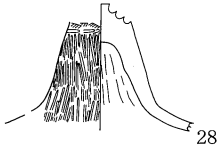


第7図 出土土器(1)

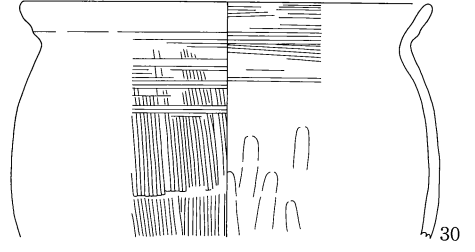
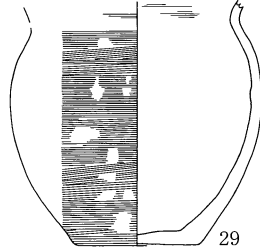
5住 (24~27)



トレンチ1 (28)



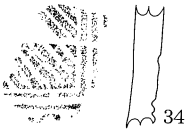
トレンチ2 (29,30)



1住 (31~34)



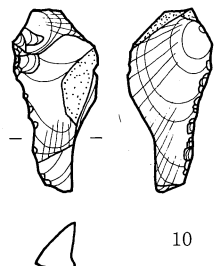
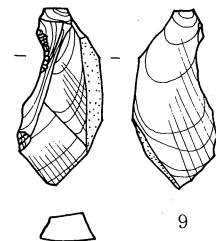
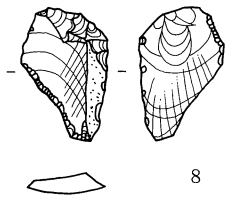
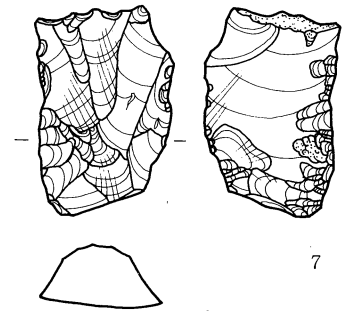
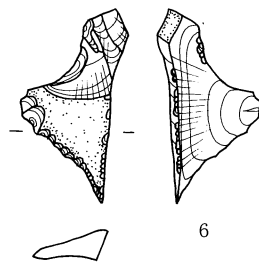
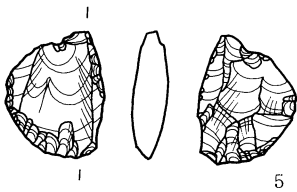
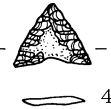
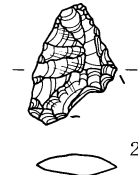
0 10cm



70 ± (35)

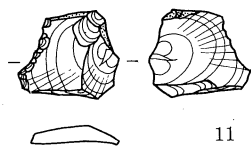


0 10cm

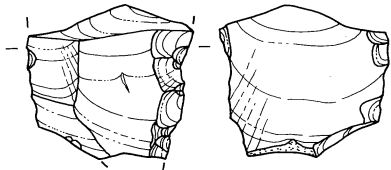
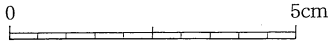


0 5cm

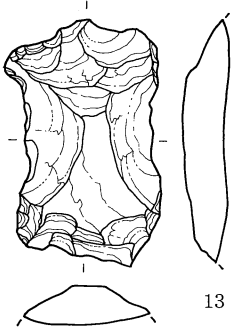
第8図 出土土器(2)、石器(1)



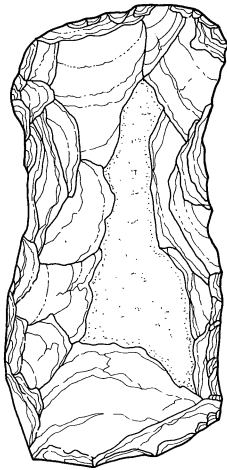
11



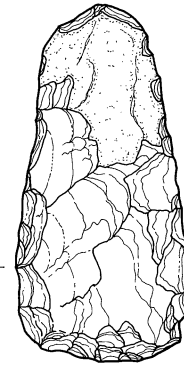
12



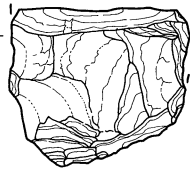
13



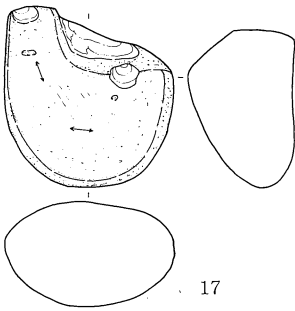
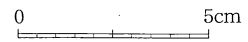
15



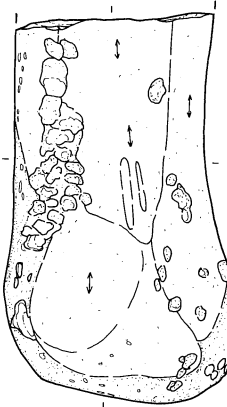
16



14



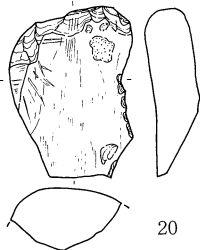
17



18



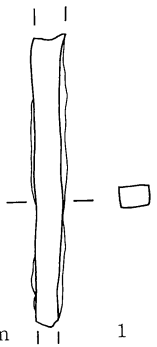
19



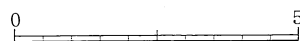
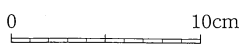
20



21



1



第9図 石器(2)、石製品、鉄器

第1表 竪穴住居址一覧

住居No	図No	平面形	規模 (cm)						床面積 (m ²)	長軸方位	炉、カマド形態、位置	時期	遺構所見
			長軸	短軸	深さ								
					北	南	東	西					
1	5	楕円形	464	376	?	35	42	42	12.784	N-83°-W	地床炉、南側	縄紋前期末~中期中	
2	5	隅丸方形	440	432	20	?	(12)	(20)	<16.128>	N-13°-E	未検出	古墳中期	壺埋設
3	5	?	?	?	21	?	?	29	<5.216>	?	未検出	縄紋中期中?	
4	5	?	?	?	?	?	(20)	?	<2.016>	?	未検出	?	
5	5	?	?	?	27	?	?	?	<3.088>	?	北壁西側、石芯粘土袖カマド	平安(7期)	
6	6	方形	670	640	?	28	?	?	(42.840)	N-15°-E	未検出	古墳中期	焼失家屋?

第2表 竪穴状遺構一覧

竪穴状遺構No	図No	平面形	規模 (cm)						底面積 (m ²)	長軸方位	時期
			長軸	短軸	深さ						
					北	南	東	西			
1	6	?	?	?	?	15	?	?	<2.448>	?	平安(6~7期)

第3表 土坑一覧

土坑No	図No	平面形	規模 (cm)			備考
			長軸	短軸	深さ	
1		円形	60	52	25	
2		(楕円形)	76	(44)	26	縄紋?
3		(楕円形)	<28>	40	20	
4		楕円形	72	48	17	
5		円形	64	60	6	
6		楕円形	64	52	13	
7		楕円形	(46)	40	18	
8		円形	48	44	21	
9		楕円形	56	40	35	
10		不整円形	88	80	29	
11		不整円形	92	44	9	
12		?	(64)	<24>	?	
13		円形	60	56	31	
14		楕円形	52	46	20	
15		楕円形	56	40	18	
16		(楕円形)	56	<28>	20	
17		楕円形	52	40	14	
18		楕円形	74	48	14	
20		楕円形	56	36	13	
21		楕円形	68	40	6	
22		円形	76	72	22	
23		円形	66	60	25	
24		円形	70	64	43	
25		楕円形	90	64	43	
26		楕円形	(60)	52	33	
27		楕円形	56	48	50	
28		楕円形	44	36	18	
29		円形	52	48	20	
30		楕円形	52	34	8	
31		円形	54	52	17	
32		楕円形	64	50	14	
33		(円形)	44	<36>	10	
34		楕円形	64	52	9	
35		円形	64	60	11	
36		楕円形	78	38	11	
37		?	<144>	<94>	27	平安
38		円形	68	64	30	
39		楕円形	80	66	20	
40	6	楕円形	72	48	18	古墳中期
41		楕円形	104	76	13	
42		円形	58	56	16	
43		楕円形	142	124	20	縄紋?
44		円形	68	64	13	
45		円形	44	42	14	
46		楕円形	62	42	20	古墳中期?
47	6	楕円形	62	54	22	古墳前期
48	6	楕円形	46	36	?	古墳前期
49		楕円形	56	50	22	古墳中期?
50	6	楕円形	164	88	25	平安(7期)

注. 平面形・規模の表記 () は推定値. < > は残存値

土坑No	図No	平面形	規模 (cm)			備考
			長軸	短軸	深さ	
51		楕円形	60	48	28	
52		楕円形	46	40	18	
53		円形	92	90	33	縄紋?
54		楕円形	76	40	21	縄紋?
55		円形	60	60	21	
56		楕円形	108	72	14	
57	6	楕円形	68	42	17	古墳中期?
58		隅丸方形	128	(96)	20	
59		楕円形	74	50	30	縄紋?
60		楕円形	80	72	17	
61		楕円形	64	46	25	
62		楕円形	96	56	15	
63		楕円形	52	44	11	
64		円形	120	116	3	縄紋?
65		楕円形	84	76	12	縄紋
66		楕円形	90	80	8	
67	6	楕円形	76	56	23	平安(7期)
68		楕円形	88	64	12	
69		円形	68	68	19	
70	6	隅丸方形	148	88	18	縄紋中期中
71		楕円形	48	32	18	
72		?	<52>	<28>	27	
73		?	(50)	<18>	8	
74		(楕円形)	(56)	(48)	6	
75		?	76	<46>	12	
76		(楕円形)	(92)	(50)	(15)	平安
77		?	?	?	?	縄紋前期?
78		楕円形	116	76	(50)	
79		円形	56	56	23	
80		?	64	<26>	31	

※19土は欠番

第4表 柱列一覧

ピットNo	図No	平面形	規模 (cm)			備考
			長軸	短軸	深さ	
1		不整円形	56	52	47	
2		円形	34	32	22	
3		円形	40	38	18	
4		楕円形	36	32	12	
5		楕円形	32	28	15	
6		楕円形	42	36	34	二段底(東側)
7		楕円形	52	46	24	二段底(東側)
8		楕円形	52	40	18	地山に礫
9	6	不整円形	46	50	16	
10		楕円形	50	42	17	
11		円形	32	32	18	
12		円形	36	34	30	
13		楕円形	56	48	12	
14		円形	46	44	32	二段底(東側)
15		楕円形	80	70	19	二段底(中央)
16		楕円形	42	36	14	

第5表 土器観察表

図No.	実測No.	出土遺構	種別	器種	法量 (cm)			残存度		成形・調整		胎土	色調	
					口径	底径	器高	口縁部	底部	外面	内面			
1	2住-10	2住	土師器	杯B	(10.2)			1/3		口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ	口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ磨滅	褐色・灰色微～砂粒	暗橙褐色	
2	2住-6	2住	土師器	杯B	11.6		5.2	7/8	完	口縁部ヨコナデ→ミガキ、 体部ミガキ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→ミガキ、 体部ミガキ	褐色微～小石粒、 灰色微～細粒	淡褐色～橙褐色～ 暗橙褐色	
3	2住-5	2住	土師器	杯B	13.6			7/7	3/4	完	口縁部ヨコナデ→ミガキ、 体部ミガキ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ	褐色微～砂粒、灰色微～砂粒、雲母	暗橙褐色
4	2住-4	2住	土師器	杯A	(13.4)				1/3		口縁部ヨコナデ、ミガキ	口縁部ヨコナデ、ミガキ	褐色微～砂粒、灰色微～砂粒、雲母	淡褐色～暗褐色
5	2住-11	2住	土師器	杯A	(18.0)			6.9	1/4		口縁部ヨコナデ、 体部ハケメ→ミガキ磨滅、 底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ、黒色処理?	褐色・灰色微～砂粒、長石、雲母	橙褐色～暗褐色～ 黒褐色
6	2住-8	2住	土師器	高杯 (杯部A)	(16.6)				1/6		口縁部ヨコナデ、 杯部縦ミガキ磨滅	口縁部ヨコナデ、 杯部縦ミガキ磨滅	褐色微～細粒、灰色微～砂粒	暗褐色～橙褐色
7	2住-7	2住	土師器	高杯 (脚部A)		(15.6)			3/8		端部ヨコナデ、ミガキ磨滅	端部ヨコナデ、工具によるナデ	褐色・灰色微～砂粒	暗橙褐色
8	2住-3	2住	土師器	甕	(19.4)				1/6		口縁部ヨコナデ、 工具によるナデ	口縁部ヨコナデ、 工具によるナデ、輪積痕	褐色・灰色微～粗粒、雲母	淡暗褐色～暗褐色
9	2住-2	2住	土師器	小形甕A		6.2			ほぼ完	ハケメ	ハケメ、胴部輪積痕	褐色微～小石粒、灰色微～粗粒、雲母	暗褐色	
10	2住-9	2住	土師器	壺B	(16.8)				1/8		口縁部ヨコナデ、 頸部ミガキ磨滅	口縁部ヨコナデ、 頸部ミガキ磨滅	褐色微～砂粒、灰色微～粗粒、雲母	暗橙褐色
11	2住-1	2住	土師器	壺B	(18.2)	7.6	(38.9)	2/3	完		口縁部ヨコナデ→横ミガキ、 胴部ナデ→縦ミガキ	口縁部ヨコナデ→横ミガキ、 胴部ナデ→横ミガキ	褐色微～小石粒、灰色微～粗粒、 長石、雲母	暗褐色
12	6住-5	6住	土師器	杯A	13.4		6.3	3/4	完		口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ→ハケメ、 底部工具による調整→ミガキ	口縁部ヨコナデ、 体部ミガキ	白・灰・褐色微～細粒、長石、雲母	褐色～黒褐色
13	6住-11	6住	土師器	高杯 (杯部C、 脚部A)	14.9	11.3	12.7	一部 欠損	2/3		口縁部ヨコナデ、 杯部ミガキ、 脚部縦ミガキ	端部ヨコナデ、 杯部ミガキ(縦→横?)、 脚部工具ナデ、輪積痕	白・灰・褐色微～粗粒、石英	暗褐色
14	6住-9	6住	土師器	高杯 (脚部B)		(14.2)			1/3		端部ヨコナデ、 稜上縦ミガキ、稜下斜ミガキ	端部ヨコナデ、 脚部シボリ、工具ナデ、輪積痕	白・灰・褐色微～細粒、石英	褐色
15	6住-8	6住	土師器	高杯 (杯部A)	(16.8)				1/16		口縁部ヨコナデ、 杯部縦ミガキ	口縁部縦ミガキ	白・灰・褐色微～細粒、長石	淡褐色～褐色
16	6住-6	6住	土師器	高杯 (杯部A)	(18.6)				1/4		口縁部ヨコナデ、 杯部斜ミガキ	口縁部ヨコナデ、 杯部縦ミガキ→ナデ	白・灰・褐色微～粗粒、石英、長石	橙褐色～褐色
17	6住-7	6住	土師器	高杯 (杯部A)	(20.2)				1/3		口縁部ヨコナデ、 杯部縦ミガキ	口縁部ヨコナデ、 杯部ミガキ	白・灰・褐色微～細粒、長石	淡褐色～褐色
18	6住-10	6住	土師器	高杯 (脚部B)		12.1			完		端部ヨコナデ、 杯部磨滅不明、脚部縦ミガキ	端部ヨコナデ、杯部磨滅不明、 輪積痕	白・灰・褐色微～小石粒	褐色
19	6住-2	6住	土師器	小形甕B	11.3				3/4		口縁部ヨコナデ、 胴部ハケ状工具によるナデ	口縁部ヨコナデ、 胴部工具ナデ、輪積痕	白・灰・褐色微～粗粒	褐色～暗褐色～ 黒褐色
20	6住-4	6住	土師器	小形甕B	(9.4)				わずかに 残存		口縁部ヨコナデ、 胴部磨滅、赤彩	口縁部ヨコナデ、 胴部工具ナデ	白・灰・褐色微～細粒、石英、長石	褐色(赤彩)
21	6住-3	6住	土師器	小形甕		5.0			完		胴部工具ナデ、 底部ヘラ調整	胴部工具ナデ、輪積痕	白・灰・褐色微～粗粒	褐色
22	6住-1	6住	土師器	小形甕B	14.2	5.6	13.4	3/4	完		口縁部ヨコナデ、 胴部ハケ状工具によるナデ、 底部ナデ、胴部穿孔あり	口縁部ヨコナデ、 工具ナデ	白・灰・褐色微～細粒、石英	暗褐色～淡褐色
23	6住-12	6住	土師器	甕	17.0	5.9	27.6	一部 欠損	完		口縁部ヨコナデ 脚部工具ナデ、輪積痕 底部ケズリ→ナデ?	口縁部ナデ 脚部工具ナデ、ナデ、輪積痕	白・灰・褐色微～粗粒	淡褐色～黒褐色
24	5住-3	5住	黒色土器	杯Aor椀	(17.0)				1/3		口縁部ヨコナデ、 体部ロクロナデ	口縁部ロクロナデ→横ミガキ、 体部ロクロナデ →放射線状ミガキ→黒色処理	褐色微～粗粒、灰色微～砂粒	褐色～黒色
25	5住-4	5住	黒色土器	杯A	13.0	6.0	4.3	1/2	1/2		口縁部ヨコナデ、 体部ロクロナデ、 底部回転糸切り	口縁部ヨコナデ→横ミガキ、 体部ロクロナデ →放射線状のミガキ→黒色処理	灰色・褐色微～細粒、白色微粒	褐色～暗褐色～黒色
26	5住-1	5住	黒色土器	椀		(7.4)			1/3		ロクロナデ、 底部付高台→ナデ、 回転糸切り	ロクロナデ、 ミガキ→黒色処理	褐色微～粗粒、灰色微～細粒	褐色～暗褐色～黒色
27	5住-2	5住	須恵器	短頸壺	(6.2)				1/4		口縁部ヨコナデ、 胴部ロクロナデ	口縁部ヨコナデ、 胴部ロクロナデ	灰色微～細粒	暗灰色
28	T1-2	トレンチ1	土師器	高杯(脚部B)							脚部ハケメ→縦ミガキ	ナデ→シボリ痕	灰・褐色微～砂粒、石英	橙褐色～暗褐色
29	T2-1	トレンチ2	土師器	小型甕D		6.8			完		胴部カキメ、 底部回転糸切り→ケズリ	口縁部カキメ、 胴部ロクロナデ	緻密、灰色微粒	赤褐色
30	T2-2	トレンチ2	土師器	甕B	(22.0)				1/5		口縁部ヨコナデ、 胴部縦ハケメ→カキメ	口縁部ヨコナデ→カキメ、 胴部指ナデ	褐色微～粗粒、灰色微～砂粒	橙褐色

注. 法量の表記()は推定値

第6表 縄紋土器観察表

図No.	実測No.	出土遺構	種別	器形	部位	調整および紋様		胎土	色調
						外面	内面		
31	1住-3	1住	縄紋土器	深鉢	胴部	斜行沈線・貼付紋(円形)・刺突(貼付紋上)	ナデ	石英	褐色～黒褐色
32	1住-4	1住	縄紋土器	深鉢	胴部	平行沈線(横・縦)・刺突状押印紋(横)	ナデ	石英	褐色～暗褐色
33	1住-1	1住	縄紋土器	深鉢	口縁部	隆帯・縄紋(LR縦)・沈線	ナデ	石英	淡褐色～黒褐色
34	1住-2	1住	縄紋土器	深鉢	胴部	平行沈線(縦・横)・平行沈線(斜・格子状)・交互刺突紋(横)	ナデ	石英、雲母	暗褐色
35	70土-1	70土	縄紋土器	深鉢	胴部	結節縄紋(RL縦)	ナデ	石英、雲母	暗褐色

第7表 石器観察表

図No.	実測No.	出土遺構	器種	残存状況	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	備考
1	ON-1	1壁	石鏃	先端欠	2.8	1.7	0.5	4	赤色チャート	
2	ON-2	70土	石鏃	片脚欠	2.0	1.3	0.4	1	黒曜石	
3	ON-3	廃土内	石鏃	片脚欠	1.8	1.3	0.3	1	黒曜石	
4	ON-4	廃土内	石鏃	完形	0.9	1.1	0.2	1	黒曜石	素材は節理面で剥れた薄い剥片
5	ON-5	1住	スクレイパー	完形	2.3	1.7	0.6	1	黒曜石	
6	ON-6	1住	スクレイパー	完形	3.5	1.6	0.5	1	黒曜石	
7	ON-7	1住	スクレイパー	完形	3.6	2.3	1.1	8	黒曜石	
8	ON-8	2住	スクレイパー	完形	2.2	1.3	0.4	1	黒曜石	
9	ON-9	6住	スクレイパー	完形	3.2	1.4	0.5	4	黒曜石	
10	ON-10	70土	スクレイパー	完形	3.3	1.4	0.8	3	黒曜石	
11	ON-11	東・中央検出面	スクレイパー	完形	1.5	1.6	0.3	1	黒曜石	
12	ON-12	検出面	スクレイパー	上下端欠	2.6	3.0	0.7	6	粘板岩	
13	ON-13	3住	打製石斧	縦に半欠	6.2	3.8	1.1	30	砂岩	
14	ON-14	廃土内	打製石斧	上半欠	4.2	4.6	1.3	33	緑色凝灰岩	
15	ON-15	6住	打製石斧	完形	12.0	5.7	2.1	214	凝灰岩	
16	ON-16	1壁	打製石斧	完形	9.5	4.6	1.2	84	変質粘板岩	
17	ON-17	6住	磨石	完形	9.1	8.9	5.3	595	砂岩	
18	ON-18	2住	砥石	先端欠	20.0	12.0	6.1	2149	砂岩	
19	ON-19	6住	砥石	一部残存	18.9	8.5	4.5	754	砂質凝灰岩	砥面は剥離し、欠損
20	ON-20	6住	砥石	一部残存	8.9	6.2	2.4	184	砂質粘板岩	被熱、黒煙付着
21	ON-21	6住	管玉	完形	1.9	0.5	0.5	1	凝灰岩	

第8表 鉄器観察表

ID	地区	検出面	出土遺構1	出土遺構2	三次元座標	金属種別	備考器種	製法	鍍金	最大幅(mm)	重量(g)	長/幅	幅/厚	形状比	形状
1			2住	No5		確定	F	不明	鍛造	7.4	4.0	7.1	1.2	7:1	棒状



調査区西全景(南から)



調査区東全景(東から)



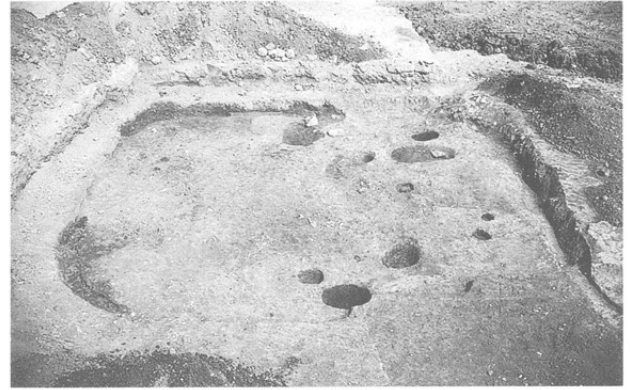
1住・3住 完掘状況(北西から)



2住・4住 完掘状況(南から)



5住 遺物出土状況(南から)



6住 完掘状況(西から)



13 高杯(6住)



23 甕(6住)



出土石器

図版1 遺構、遺物

岡田西裏遺跡Ⅷ緊急発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとしおかだにしうらいせき8きんきゆうはつくつちようさほうこくしよ								
書名	長野県松本市岡田西裏遺跡Ⅷ緊急発掘調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	松本市文化財調査報告								
シリーズ番号	No182								
編著者名	三村竜一・岡崎武祥・森 義直								
編集機関	松本市教育委員会								
所在地	〒390-0874 松本市大手3丁目8番13号 (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738番地1・TEL0263-86-4710)								
発行年月日	2006(平成18)年3月24日(平成17年度)								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
		市町村	遺跡番号						
おかだにしうら 岡田西裏	ながのけん まつもとし 長野県松本市 おおざおかだまち 大字岡田町523-1他	20202	8	36度 16分 11秒	137度 58分 41秒	20050404 ～ 20050428	426m ²	宅地造成	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
岡田西裏	集落跡	縄紋 古墳 奈良 平安	堅穴住居址 6軒 堅穴状遺構 1基 土坑 79基 ピット 153基 柱列 1基	縄紋土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 石器・石製品		8回目の調査。縄紋時代前期末～平安時代の集落(住居址6軒、堅穴状遺構1基、土坑、ピット)の一部を調査し、土器・石器等良好な遺物を得た。遺跡の北端部にあたる。遺跡の中心は、約120m南の岡田保育園周辺と思われる。			

松本市文化財調査報告No182

長野県松本市

岡田西裏遺跡Ⅷ

—緊急発掘調査報告書—

発行日 平成18年3月24日

発行者 松本市教育委員会

〒390-0874 長野県松本市大手3丁目8番13号

印刷 精美堂印刷株式会社